

## 《 書 評 》

—— 症例から学ぶ ——

## 高齢者疾患の特徴とその対応

寮 隆吉=編集 神戸大学名誉教授

株式会社 金芳堂 2011年6月10日

鈴木 光雄

(介護老人保健施設 一羊館 管理者 施設長)



老健施設入所者のなかに、貧血の老人がいることは稀ではない。しかしヘモグロビン濃度が4g/dlとか3.9g/dlの方がいると、これはどうしてだろうと考える。昨年の県老健大会に老年性貧血をまとめてみた。入所者の貧血は、症状を示さない。このとき購入したのが本書である。その4章に「血液疾患」があり、貧血—鉄欠乏性貧血について明確な記述があり、鉄剤の投与効果が劇的であったことが、わが意を得たと感じ入った次第である。

著者の寮先生は血液学の専門家で、神戸大学を定年退職された後に、京都市の独立型老健の施設長として勤務されている方である。

著者は本書の序文で以下のように述べている。「専門領域である血液疾患だけを診ていればよかった。しかし現在の職場は、高血圧、脳卒中後遺症、心不全、呼吸器疾患、糖尿病、尿路疾患、皮膚疾患そして認知症と幅広いレパートリーの多臓器の疾患を診なければならない。今振り返ると、老人施設での4年間は、それまでの40年間で学んだことよりはるかに多くのことを学ぶことができた。

・・・いろいろな失敗を重ねながら、職場がら主に治療学を磨きあげることに集中した。幸い5分間で診断治療するという離れ業をしなくても、24時間、最低1ヶ月位は状態を観察できるところで働いている。患者は在宅復帰を目指すものから、施設での死の看取りを希望するものと幅広い。2年位たった頃、自分なりの高齢者医療のイメージができ上がってきた。そしてその後の2年間は、私の治療方

針が本当に役に立つかの検証をした。そして専門家や一般医家とは違った観点から、高齢者の特徴を踏まえた治療学を提案できると確信した。・・・高齢者を多く預かる高齢者施設で働かれる医師も、広範囲にわたる疾患の対策に苦慮されていることであろう。・・・よりよい高齢者医療を作り上げるためのたたき台として、大いに本書を使っていただきたい。どのような批判も歓迎する。・・・cure から care に移るとき、看護師、介護福祉士そしてリハビリスタッフの果たす役割は大変重要である。高齢者医療は医師だけで行うものではなく、ケアスタッフとの共同作業、いやケアスタッフが主役として活躍する場合も多い。」

本書の内容は、高齢者の心疾患、呼吸器疾患、意識障害、血液疾患、認知症等の諸疾患に加えて、死の看取り、高齢者への投薬の諸問題、入所時の多剤処方スリム化などを記述している。資料として、先発薬とジェネリック薬との価格比較など大変参考になる。例えば、ゾピラックス：4,715円に対し、アシクロビル250mg 注射用は689円である。

老健医師として、本書のように参考になる本は稀であろう。御一読をおすすめしたい。